◉蓄音器 各種 新番譜 各種 新荷着 東京三光堂 蓄音器韓國總代理店 京城本町 辻屋 本店電 二四八 支店電 三六六

京城新聞

妄言妄評（十）

業獄生

▲一度口を開けば着實と叫び、意氣を豪して悠倒を迎へ、學生は卒業後の仕官若しくは偉人となりて俸給を得ると目的として學業を勵みたり、其結果世は悉く平凡と化せりき、使ばる人間のみ多くして頭領たるべき人物は缺乏せり、見やや方今の人物を、上は總理大臣より下は人力車夫に至るまで其人格に余り大なる差違を見ず、大臣に接したり迎余り豪しとも思はず、車夫馬丁に接して跪するも決して馬鹿に非ず、暴竟之れ鈍栗の脅競べのみ、世は自然平凡に傾き果てたり、單調に倦み遊くしたり、

▲時代は將さに推移せんとす、時代は偉人を要求し來れり、小利口小才子は將さに排斥されんとす、意氣を尚び義を重ずるの風は起らんとす、權利義務の西洋思想は淳化して尚武の志想は湧起し來らんとす、世は英雄豪傑の出現を渇望せり、

▲時勢は偉人を作り、偉人は時代を造る、今や爵風して將さに伸びんとする猛烈なる潜勢力は顯はれん、時代精神を發揮すべき人物早晩來るべし、帝國の大陸政策は其時に於て活躍すべけん乎、對外政策の振はざるや久し、國民は憤慨せり、之が發展を策する大人物の出現を俟つ、恰もユダヤ人の豫言者を俟てるが如し、夫れ帝國の發展期は來れりと叫ぶもの何時來るべき乎、

●忠州旅行記

三十日忠州 清風

七月二十二日の晝であつた、部長から一寸來いとの事で何事が知らと部長の室へ出たら君ね、相談があるが少々危險な處だから命令はせぬが、ドウだ忠州迄行つてくれぬか、用向は此れ〳〵だが途中暴徒が出るかも知れぬ、其れで行く行かぬは君の隨意だ若し行くなら行き給へと云ふ事であつた、其の用向きと暴徒とは大に關係がある事柄なので少々面喰らつたが、生來旅行好と來て居るので、危險と云ふ考へは忽ち消へて旅行の趣味がムラ〳〵湧いて來た、宜敷う御座いますと參りませうと答へた、處が僕の答への余りに突然で急だつたので部長は念を押されたが、僕は此の時は早や危險等の考へはない、唯旅行の空想に驅られて居るので、否や大丈夫です行きますの一點張であるで部長は君は別に差迫つた用事もなからうから其れなら行く手續をし給へと言はれたので、早速其の用意に取掛つた、家に歸ると家族等は盛に旅行に反對する、命令ならば兎に角命令でもないのに自ら進んで希望するなんどは命知らずだ、餘り無鉄砲だ困つた人だ、れ止しなさい等と、散々攻撃交りに止める、此の時は數萬言の忠告も馬耳東風で、書棚から朝鮮地圖や、東國輿地勝覽等を取出して、旅行地境の地勢や、名所舊跡を調べて、身は已に旅行の人と化し清州の平野、忠州の山水に遊んで居る、友人知己は僕の旅行には多少の憂慮を有して居る、其れは忠清道は儒生の巣窟、暴徒の根源地であるからだ、然し暴徒の根源地は、今や巨魁の殲滅と守備隊の追討とに依りて四散、滅裂の有樣で、江原、咸鏡の方面に據つて居るので、昔日の如き危險はない、唯時々草賊の輩が出沒する位のもので、我が兵を見れば遠く潜散すると云ふ有樣である、其れに久しく朝鮮にも住んで危險を冒した旅行も度々やつて居る僕は草賊位のものと、高をくゝる丈けの確信は持つて居る、唯僕の恐るゝ處は曉碩峻坂の行路と炎天の二つである。

支配人部長其他諸士の懇篤なる注意の下に八月二十九日一人の友と共に、草鞋脚絆の輕裝に南山城の家を出て、南大門驛に着いた、フト、見ると呑氣な面に、何所となく落ち付き兼ねるやうな、不得要領な面持ちで白雨と日池の二人が立つて居る、やあどうしたと云へば、白雨君が歸るから送りに來た、君はどうした、僕か、僕は忠州に暴徒討伐に行くのちやと云へば、其れは危險じやと眞目面になる、兩人共に同じ事を云つては笑ふ、釜山行きの滊車は着いた、鳥致院迄の赤切符を買ふて滊車に乘つた、係長の竹村氏は態々滊車場迄僕を送つて來られて危險のないやうに用心せよと注意された、發句屋の牛人が來た、機ればせ靜岐も來た、牛人が豪ひ扮裝で何處に行くと問ふから、忠州じやと云ふ、何の用じやと云ふ、此れ〳〵の用じやと答へた、其りや危險じや、爆裂彈持つてるよりも危險じや、香典の用意して置かう等云ふ、現角する内に、發車鈴が鳴る車掌が笛を吹く、送る人送らるゝ人の言葉が八釜しく交換さるゝ、滊車は轟々の音と共に走り初めた、暫くすると白雨君も無聊と見へて僕の方へ來た、韓國の無趣味な事や、東京の變化等、有り觸れた話は、話の切るゝ毎に引出さるゝのである、車内は中央東側にある我々の一行と其西側に對座せる支那婦人二名我々後に夫婦者一組、尤も南方には請負人らしきもの二名隣席には東京へ行くと云和裝の韓人一名である二名の請負人らしきは堤防の潰崩橋梁の墜落した處等指して頻に話して居る多分工事の事を談話するのであらう支那婦人は二人共韓人の妾だそうな中々巧みに日本語を操る、夫婦ものは多分日本へでも行くのであらうか、二人の間には餘り話はない、時々そうかねーと云ふ事が滊車の音の爲め途切〳〵に聞へる、其の中で聲高く談じ且つ笑ふは我々の一行である、沿路一帶は青々として、禿げたる韓山も今は若かゝし〳〵と見へるが、然し單調は何所迄も單純である、堤防橋梁は殆んど到る處潰崩墜落して居る、草は泥に浸され、道路は川底となり、小川は大河と化し四圍の光景は、轉た大雨當時を追想して驚愕の感が起る、京城を去るに隨つて、田圃遠く廣く、田には檜の如き冬の遠山は、まだ白き衣を着けて居る、畔には農爲太平を大書したる旅の物は、一つとして變りたる態もなれど、淡漠の中に登へ、凡そ目に映ずるほどして、其眞白き手の頭ち胸にあてゝ千々に心を樹て數人一團となり、太鼓、鉦を叩いて頌りに躍つて居るのが見へる、稻株の青々として肥へて居る處を見ると、人に聞く迄もなく、今年は豐年であると云ふ事が知れる（未完）

新不如歸（七十一）

小說 篠原燈葉著

百合子は招仙閣の前に出ると、滊車の軌道を横切つて蜿々とした田舍道を辿り、それより一帶の松並木の間に差かゝつたが、其の中程に進ひだ時ツト道の眞中に立停つて思はず微笑を漏らすのであつた、それは敏男と新婚旅行のために招仙閣に滯在した當時嬉しさうに手を取合つて此樣樣徜徉する時、しかも今自分の立停つた所で十七八の田舍娘に出逢つた事を思ひ出して言ひ知らぬ懷慕しさを覺ねたからである、寸時は去りも得やらず種々と歩み出して一番望など除じく語合たるに僅か五十日餘を過した今は、戀しき人と又語るべくもあらぬ悲しき運命に陷りたるさいわるに身は思ひ寄らぬ不治の病に襲はれて假令ば燈火の油が盡きんとするにも似て、目立ちてこそ見ねぬけれど、日一日と肺の腐蝕しつゝある、世にも哀れなる境遇に沈みたる身の、只一人此處にこの景色を訪るゝ果敢さに思はず胸せまりて、滴乎と涙を漏した。

「本當に思出すと悲しくなつて來る、此の以前此處に來た時は、那麼樂しい事は生れて始めてであつたが、僅か二月經つか經たないに、もう這麼哀な境涯に沈むと云ふは何と云ふ不思議な事か知ら、敏男さんは豊夫不在中に私が離縁なんと云ふ情ない目に逢つた事も御存じないで、れ別申した時の百合子で居ると思つて樂んでれ歸りなさるであらう……莞爾と笑つて滊車や船に後押しを付けて急いで歸ると、御常談有仰つた顔が目前に見ゆるやうだ」

と密と涙を拭ふて、又感慨に沈む樣子であつたが、思ひあまつた態で、

「……れ歸りなすつたら、嘸吃驚なさるであらう、うしてれ母樣が足病と信々云ふ事情があつた爲に離縁爲たと有仰れば、何と思へなさるだらう、眞個私が那麼道ならぬ事を爲たと思ひなさるであらうか、いや〳〵豫々私が足病を可厭がつて居る事は能く知つて居なさるから、豊夫那樣事を信じなさらう理はない、して見ると母樣と私の間に何か事情あつて離縁されたとた心がれたる大雨當時を追想して驚愕の感が起る、京城を去るに隨つて、田圃遠く廣く、田には檜の如き冬の遠山は、まだ白き衣を着けて居る、畔には農爲太平を大書したる旅の物は、一つとして變りたる態もなれど、淡漠の中に登へ、凡そ目に映ずるほどして、其眞白き手の頭ち胸にあてゝ千々に心を樹て數人一團となり、太鼓、鉦を叩いて曾ては愛し愛された良人と共に歸く未來の

つの大きな巖のある場所に出た、そして病氣の事などは打忘れたかのやう、苦しき息を事ともせず、欣々として巖の上に登つて今より五十日の昔、敏男から百合さんも此處へれ掛けーと云はれて、相並んで腰を下した、やゝ高目になつた巖の上にハンカチを布いて腰を掛けた。

うして先づ近くの景色に目を移せば、巖の裂目から生へた松の木も戀らすあれば彼の敏男が變な手付をして致へて下れた、ヌツと手を伸したやうな松の木もある、ツイ目の下には緩かに寄せては返す女波男波がパタリ、パタリと曲を調べて居る、又遠く海の彼方を見れば穏かなる海原は眞帆、片帆の船を浮べて、昔ながらの活畫を示し、墨畫の如き白雲は、ふ母樣だから必然眞實しやかに有仰るに相違ないから、眞個私が遊ならん事を爲たものとれ憎しみなさるかも知れない、然うなつたら私奈何すれば宜いか知ら……」

大日本麥酒株式會社

景品附大賣出

第一回抽籤

當籤番號（抽籤數千六百六十本）空籤なし

一等（公債證書額面二百圓）一本 一、五一六
二等（勸業債券八十圓）一本 五一五
三等（勸業債券四十圓）二本 二、三二二 九二八
四等（貯蓄債券二十圓）三本 三 五 一、九四三 〇九二 二八六 三
五等（京仁共通商品切手十圓）五本 一、〇九四 二九〇 三三一 七六二 九二
六等（京仁共通商品切手五圓）四十本 一、六五二 一〇八九 七三九 一九八 二二九 一〇〇 五五六 九五一 三九九 二一一 五二二 八七九 三三三

等外總て二十錢相當の物品

右相當の景品券御所持の御方は左の事項御承知の上御引替相成度候也

景品引替期日 八月十五日迄

景品引替場所 仁川本町一丁目 京仁麥酒販賣組合事務所（第一銀行向へ）

同 京城本町三丁目 京城假事務所（總屋商店方）

鐵道全線開通

○當分の内京仁間及京義線列車は修繕工事の進行に應じ臨時變更時刻に依る

○京義線臨津江長端兩驛間に於ける臨津江橋梁修繕中に付當分（約一週間）旅客は假橋徒歩乘換への事

○大貨物臨津江經過のものは斤扱の食料品及速達便扱に限り取扱候事

明治四十一年八月

統監府鐵道管理局

▲流行の魁 新柄あり地帶あげ其他種々 取揃へ店頭へ陳列致置候 間御散歩御來觀被下度候 京城明治町一丁目 あり徳 商店

東京新聞

文官任用令に就て感

韓國の現今は創始の時代なり、數百年の弊習を打破して新制度を建てんとするの時なり、統監府設置以來新法南の如く降り、韓人官吏は之が運用に苦み漸く日人官吏に依りて其道を辿らんとするの狀態ならずや、多數の官吏すら斯の如し、況や人民に至りては唯夫れ茫然たるのみ、韓國地方の狀態を知るものは新法令を布くの早きを感せざるものなし、韓國現時の文化程度は甚だ低く、我國文化の程度とは千年以上の差ありと云ふも決して過言にあらざるべし、人倫の差違あるなり、物質的進歩に於ては或は比較し得らるゝも精神的文化に至りては實に霄壤の差異ならず、我國は維新前にありて既に歐米の文物を咀嚼するの頭腦を有したり、斯く懸隔せる我國の維新當時と比較して韓國民を律せんとするに至りては誤れるの甚だしきものなり、然るに我國の法令と格別の差違なき新法令を續々發布して此幼稚なる思想の韓國人を律せんとす費用のみ多くして成績の顧みざるは素より當然の事なりとす、今國發布せられたる文官任用令の如きも亦其一ならざらん乎、理論に於ては或は立派なるものならむ、之れ恰も南洋の土蠻に向て精巧なる理化學的器械を與るにも似たらん乎、一見紛飾の美なるに奇異の感を起すも、複雜巧緻の機關は說明するも會得せざるなり、之を使用せしむるには先づ頭腦の發達より始めざる可らず、新法令と韓國人とは聊か之に類するの觀あるにあらずや。

韓國の現狀は未だ文官任用令を要する時代にあらざるなり、行政機關の如きも斯國程度の狀態よりすれば現今の如き複雜を要せざるなり、從て吏員を採用するにも嚴格なる規程に依らず、未開の人民を利導するに適當の手腕あるものを撰拔するを要す、一も二も文明式制度に依るべきの時代に非ざるなり、推ふに統監府の道口が韓人を日本人同樣に取扱はんとするが抑も誤謬なるに非ざる乎、余輩の考慮にては韓國政府に今日の如く幾多の大臣すら置くの必要なく統監の獨任により二名の總統官を置けば可なり、此二名をして各部の大臣を兼任せしむれば可なり、實際の事務は既に今日に於ても次官に依りて決行せらるゝなり、幾多の大臣を設けて外觀上文明國の如く粧ふの必要なし、斯の如く二名の總統官を置て宮廷及人民に對して責任を負はしめ、施政の方針は統監の指示に從ふとせば簡明にして實際の行政にも差支なからん乎、創草の時代に於ては成るべく簡明直截を主とせざる可らず、徒に法文のみを整へて繁雜ならしむ可らず、法は死物なり之を運用する人に依りて活く、余輩は當局者に向て行政機關の複雜ならざらんことを希望して止まざるなり、

●對星樓茶話

△言論の自由を抑壓するは尤も不合理にして尤も卑屈なる政策なり、斯くの如き政策を用ゐて居る間は官民の衝突、不和、反目は決して排除致し難く候。

△京城日報子が民長官遷を辨護するに反して「ソールプレス」が修正說を唱ふるを見て、官撰說が統監府側に於て重要視せらるを推測し得らる。

△折角の序を以て韓國政府に獻策仕候殖民學研究のため在韓廷邦人官吏中の秀才を選拔して歐米各國に留學せしめ候はゞ、日韓共通の繁榮のために不少効驗可有之候。

△天に大雨ありて地に洪水となるは各位御寸を離れ通話するときは通話非常に不明となるを以て送話口に唇を觸るゝ位に近付け通常の音聲にて通話する(一)通話中は如何なる事故あるも受話器を機械掛金物に掛けざる事等なり

△京城郵便局に赴き如上の談話を耳にせし上慰駕なる係員の案内によりて交換室に至り詳密なる說明の下に實地に就て目擊したり、其規模の宏大にして機械の嶄新なるには不思議の感を生ずるの記者をして一驚を喫せしめたり因に之が實況に就て種々說明の任と試驗の勞とを取られし係員の厚意は記者の繼重にも鳴謝する所なり

△官撰說が統監府側に於て重要視せらるを推測し得らる。

△折角の序を以て韓國政府に獻策仕候殖民學研究のため在韓廷邦人官吏中の秀才を選拔して「ソールプレス」が修正說を唱ふるを見て、共通の繁榮のために不少効驗可有之候。

△天に大雨ありて地に洪水となるは各位御承知の如く、我國の文字に無之候、秋聲天に在り、秋風地に吹く、乾坤の一快事を期待致候。

△大同會、東亞教育會の韓人連が妓生を携へる位は、韓人間に於て常事のみ、之を目して墮落と批評し、腐敗と評論致候事、近來の奇聞にて候、其程識慢がましき事をヨボ連に要求するは隨分過分の要求と可申也、花月清華各青樓に出入する邦人の狀態より目擊せられ度候

△洗劍亭に臥して清泉を汲み、晨に起きて西門の蓮花を賞し、南山の深谷を攀ぢて草花を折り、漢水に棹して鮮魚を食ふ、漢城の夏も亦た清趣少しとせず、只だ之を行ふの閑人無きのみ。

▲手形交換大會決議

全國手形交換所大會に於て左の決議をなせり

一、租稅に依らずして財政の許す限り公債償還をなす事

一、公債償還をなすは每年六千萬圓を下る可らざる事(以上四日發)

雜報

●軍司令部會議

昨日午前十時より長谷川軍司令官以下幕僚岡崎師團長明石憲兵隊長松井警務局長丸山警視總監等軍司令部樓上にて暴徒討伐に關し會議したるが尙本日も引續き開會する筈

●警察部長會議(第二日)

四日は午前十時開會新裁判所關係に關し訓示演說をなす筈なりし倉富法部次官は參與官會議のため缺席し國分檢事總長出席して新裁判所開廳に付犯罪檢舉に關する訓示演說をなし午後藤田駐韓軍人醫部長出席して傳染病豫防と軍隊衛生に關する地方警察官の注意に就き演說し午後二時散會し尙本日は午前拾時開會し事務の打合を爲す筈なり

●大臣會議 昨日午前十時より各大臣は統監官邸に參集し定例會議を開けり

●參與官會議 昨日午前八時より統監府會議室に於て各參與官出席し定例會議を開けり

●韓國國祭日に就き(某外人談)

韓國政府にては今回祝祭日節日を定め公告の手續に及ばれたるが其祭日表中日本の天長節が見當らぬ樣なり元來宗主國の大國祭日天長節の如きを保護國が自國の國祭日として祝すべきは當然の事にて其例は英國と其各保護國及佛國と其各保護國に因つて知るを得べし韓國が日本の保護國として宗主國の天長節を不祭日と定めたるは大に禮を缺きたるものたるを非るか云々

●即位式紀念式 本月二十七日は隆熙皇帝の第一回即位紀念日なるを以て漢城府民團にては盛大なる祝賀會を開かんとして昨日石鼓壇に於て協議會を開きたりと云ふ

●邦人の暴徒被害者

韓皇陛下は暴徒のため害を蒙りたる內外人救恤金として御手許金拾萬圓を下賜され內部大臣は此れを被害者に分與するため外國人に關するものは統監府の調査に基き救恤金を一纏めとして同府に依託すべき事は既報の如くなるが今統監府の調査したる昨年七月十九日即ち暴徒發生以來本年七月七日迄の日本人被害者は其の殺されたるもの百二十五人にして燒棄されたる家屋三十二戶なり救恤金は內外人共死者一人に付拾圓宛燒家一戶に付十二圓宛の割合にして此の金額合計千六百三十四圓となり而して他の外國人(實際には清國人のみ)に關する調査は未濟に付取敢へず日本人に對する右の救恤金を近々內部より統監府に引渡す筈也と

●北韓漁業航路開始

北韓殊に鏡城灣附近は水產物豐富にして就中鰮鯛鰯の漁獲は最も盛況を極め目下は鰮の漁季に入れるが清津に於ける鰮の市場は其の最も漁獲多き時に當りては一尺五寸乃至二尺の大鰮僅十錢乃至十五錢に過ぎず其他の魚類も此れに準ずべしされば今敎賀清津間の航路を開始し此等の魚類を氷藏して大阪神戶に輸送すれば三十六時間にして達する事を得前記の鰮の如きは市價優に二圓乃至三圓を呼ぶべく該航路の開始は北韓漁業の發達上極めて緊急に屬すと某當局者は語り居れり

●萩田某の放言

京城仁川の三ヶ所は左樣でもないが他の各民團に至つては實際自治の能力がないと斷言してもよい京城の各新聞が筆を揃へて盛に反對論を書いて居るのは要する處情の爲めで惡い言へば紙面埋めの爲めだ

●仁川議員の態度

仁川民團議員の民長官撰に對する態度は甚だ冷靜なるが如きも其實は然らず過日來より四五議員は寄々其前後策につき密議を凝らしたるが愈々本月中旬開會の卅回民會に於て一大問題として論議すべく其反對の方法については疑ふべからず而して其對の方法に於ては京城民團議員と同樣の態度に出るか將又直ちに總員擧つて辭任を申出るか左なくば尤も靜穩に然も皮肉に苟も民長官撰を他逐遂行せんとならば民團の行政は全部官營となされたくと之れ民長官撰が法規上の矛盾行爲なるに不拘統監府は强ひて敢行せんとする如く民團行政の官營を敢て爲しせざるにあらざるべしといふにありて何れか並し十數日中には民會に一花咲かす事なるべし

●新式電話交換機

▲京城局電話交換機の改善 ▼輕易にして利便なる交換機▼ 直ちに接續し得るものなり而して此度當局にては採用したるも共同電池式交換機と稱し復式交換機に於て採用したるも共同電池式交換機と稱し復式交換機中最も優等のものにして現に米國等に於て盛に使用せられ居れりと之れに電池を設置するの必要なく凡て電池は中央局に集合せるもの故中央局にては大ひなる蓄電池を設置し凡ての電氣は皆之の蓄電池より供給する事となり居れり

▲本配線盤 本配線盤とは外部より引込みたる加入者線を取り付くるものにして本機の目的に三あり(一)加入者線切替(二)障碍試驗(三)加入者線盤

▲中間配線盤 中間配線盤とは本配線盤より交換機に至る間に裝置すべきものにして本機の目的は加入者使用の繁閑を等しくし交換手の勞力を平均せしむるにあり

次に新機械の變更後加入者の注意すべき事項は(一)今回加入者宅に裝置したる電話機は「ソリッド・バック」形なるを以て從來の「デルビル」形の如く送話口より二三寸を離れ通話するときは通話非常に不明となるを以て送話口に唇を觸るゝ位に近付け通常の音聲にて通話する(二)通話中は如何なる事故あるも受話器を機械掛金物に掛けざる事等なり

尙記者は昨日京城郵便局に赴き如上の談話を耳にせし上慰駕なる係員の案內によりて交換室に至り詳密なる說明の下に實地に就て目擊したり、其規模の宏大にして機械の嶄新なるには不思議の感を生ずるの記者をして一驚を喫せしめたり因に之が實況に就て種々說明の任と試驗の勞とを取られし係員の厚意は記者の繼重にも鳴謝する所なり

●朝鮮日々社園遊會

朝鮮日々新聞社移轉披露の爲め催されたる納涼園遊會は既記の如く一昨日午後七時より和城臺公園に於て開催されたり先づ來賓一同席に着くや今井主幹起て園遊會開催に就て一應の挨拶あり次て熊谷民長來賓を代表しての答辭あり戶叶大韓日報社理事の新聞社を代表しての答辭あり夫より宴に移り酒間は花月、柳翠、清華等各料理屋より繰り出せる紅裙幹旋し此間軍樂隊の奏樂及び仕掛花火、打揚煙火、白川一座の喜劇、清華亭、花月藝妓の手踊等演ぜられて來賓の興を添へたるが此間摸擬店に至りて汁子を啜るものあれば「ビヤホール」を襲ふものあり興は涼風の加はれる共に益々湧き來り歌聲は南山に響する煙花の音響と和し和氣滿々の裡に隨時歸散したるは同十時過ぎなりし當日重なる來賓は明石憲兵少將、宋內部大臣、岡、俵兩次官、丸山警視總監、松井警務局長、各部書記官、民間よりは市原第一銀行總支配人、熊谷京城民長、淵上龍山民長、兩會議員、實業家、辯護士、新聞記者及び各地方有志者等にて無慮八百餘名の多數にて近頃稀有の盛況なりし尙當日の來賓一同に對し團扇及び煙草、マッチ、紀念繪葉書を贈與せられたると設備の周到なりしとは參列者一同の感謝する所なりし

●久保田理事招待會 統監府の石塚、小松、中山、三浦、村田の諸氏內部の岡、松井、中原、澤田、岩井、窪谷、永田、岡田、壹岐の諸氏及び俵學部官長濱關稅總長其他は歸朝の高木安太郎、捻事代理宮田深藏及岩田辨護士の三氏は例の鹿島王事件取調の爲め來る十日同島に出張の筈

●愛國婦人會韓國本部當番幹事 愛國婦人會韓國本部當番幹事として是迄村上、三宅、熊谷、中村、巨智部の各夫人壹力中なりしが三ケ月更替滿期に付今般松井、瑞家、國分、頭本、羅尾の諸夫人八月より十月迄當番幹事なる

●韓國新聞

▲衛生 組長相會し民長官撰反對の意見を發表し民團議員に聲援を與ることに決議す

▲府令 の下に活動する民團役所補助機關たる一部の職に居るは屑からず辭退せり

▲衛生 組長會解散し新に町內の便宜を計るため町內申合せて組合を設る事に決議す

▲居留 民の意志は漸次發表せらるゝ之れ居留民として當然の事なり官憲須く反省せよ

▲御用 紙筆を偽て居留民に反對の意向少しと辨ずれ共事實は如何とも抹殺す可らず

▲各地 の民團も頗に反對の氣勢を發揮して來れり此事ある以上は當然當局者は情も不明也

▲地方 民團代表者續々上京するの模樣なり聯合大會の開かるゝも必す遠からざらん

▲若し 當局者にして非を悟らば一日も早く撤廢するが穩當也擧拗すべき時にあらず

▲御用 紙の如き無禮の筆を弄したる事に就て宜く在韓居留民に向て謝せざる可らず

▲如何 に御用紙と雖も在韓居留民に對し自治の能力を欠ぐ杯とは何たる無禮ぞや

▲等し く帝國民の一人として能くも同胞を侮辱せる筆を弄せる者ぞ唯唾棄の外なし

▲斯る 暴論を以て居留民に對する故に官民の融和を缺ぐ也宜しく腐慢せざる可らず

▲各地 民團代表者來りて大會を開くの時は之等も決議するの必要あり大に奮起せよ

▲文官 任用令の關係に上りし時宋內相大に反對したりとの說あり果して事實なりや

▲如何 なる動機より反對したるかを詳にせざれば尙は未だ讃める譯には參らざる也

▲自己 の立場より部下の任用に不都合なる爲め反對する杯にては却て隨劣を買めん

▲然れ ども韓國現時の程度より尙早を以て反對したるならば卓見と云はざる可らず

▲嚴柱 益民東京に滯在して完用內閣變更の爲に運動すと例の韓人特有の傳說なる乎

▲果し て事實とすれば嚴柱甚だ愚劣也今頃東京に御先棒になりて働く者一人もなし

▲滿洲 よりの途次立寄られたる久保田滿鐵理事は後藤男の下に次官たるの噂ある也

▲郡人 の次官は或は適任なるやも知るべからず今回の歸朝是が爲にあらざる乎否耶

▲盛文 堂主西河通徹氏近去せりと鄕里字和島に於て噂あり終に二新聞迄に揭載さる

▲鄕黨 爲に驚き者を發して京城の知己に問ひ來る其人西河氏に之を告げ洪笑したり

▲西河 氏書を鄕黨に送りて曰く死去の際は彼是御世話に相成候今や幸に頑健なりと

▲鄕黨 の驚き知るべき耳さるにても隨分妙な噂も立つ者なり西河氏の書や長からむ

●岩本英夫氏 訴訟用紙を帶び先日東上元田肇氏の許に滯在中なりし同氏は一昨夜八時より花月に招待し曉餐會を催せり氏は一昨夜行列車にて出發歸朝する筈なりしが此れがため延期して昨朝八時三十分發南大門發急行列車にて出發せり

●賊徒討伐情況

△慶南陝川守備隊の上等兵以下八悪兵三名は變裝斥候となり七月廿九日陝川西方約四里竹田附近に於て賊十八を殪し火繩銃十四其他雜品若干を鹵獲す

△全北龍溪院守備隊の下士以下六名は七月廿六日龍溪院東北方一里に於て賊一を殪す

△光州駐兵中隊の上等兵以下六名は七月廿九日淳昌西方四里に於て賊約二十を討ち五を殪す我兵一名負傷す

△全州東方留川里分遣隊の下士以下五名は七月廿二日鎭安西方五里の藥峴に於て賊二を殪し同日更に其附近に於て約三十の賊を討ち十三を殪し二を捕へ銃十一を鹵獲す

●仁川信用組合と定款 仁川信用組合は過日八坂樓に於て創立發起人會を開き愈々其筋に認可請願をなすに決したるが尙未だ定款審査委員の撰定を終らざるにつき不日發起人中より十名の審査員を推撰し定款審査確定の後請願の手續に及ぶべしといふ

●護衛巡査請願 黃海道チン山及ハンバキ山附近の漁船に薪炭、飲料水、食料品の供給及漁場變更の際は曳船をして小蒸氣一隻を出すを例とせる仁川松阪町安田淺次郎より途中海賊の襲來に備ふる爲め護衛巡査を附せられたき旨仁川理事廳に請願せり

●茶話會の好況 韓國各大臣及び中樞院顧問李根澤、閔泳徽、權重顯の諸氏等時事を研究する目的を以て組織せし茶話會は入會者頗る多く好況なりと

●慶應義塾商業學校の生徒 慶應義塾商業學校の生徒を以て組織せられたる行商隊の一部は目下當地に來り原金旅館を本陣として此炎暑にも不拘日々八方に手別けして雜貨の賣捌を試み居るとの事なり記者は相當の身分を有する家の子弟が顧に汗するこゝを實習するの心がけを嘉みし世人に向つて右行商隊に同情を寄せんことを希望するものなり

●仁川の電話加入者 仁川七月末の電話加入者總數を聞くに六百十四人にして六月末は六百六十三人ありしと

●恒吉少將 南部守備隊長恒吉少將は土方副官を從へ一昨日入京天眞樓に投せらる

●三氏の鹿島出張 仁川理事廳副理事官

▲復式交換機 復式交換機の最も優なる者は共同式交換機を使用するの要を見る中繼接續を要せざるものにして加入者にても一人の交換手にて

短篇小說

愛（二）

青楓生稿

折から薄暗い、長い廊下に、足音がするので、男女の話は途絶えて仕舞ふ。

其處へ肥ゑ太つた愛嬌顔の、多分此家の女中であらう、黒塗の丸盆にビールを載せて這入つて來るのである、ビールの瓶口からは、ブツ〳〵と泡が吹き出る。

「どうも失禮致しました、ね場ひも致しませんで……サア且那、一つね酌致しましよう」と嬌然する。

「今晩は、何卒緩つくり遊んで居らつしやいな、他に客と云ふのも、二宮さん一人ですから」

「二宮ッ……薄い髯の男か……」

彼れの眼は、怪しくも光つた。

「左樣で御座います、厭なデレ〳〵した男よ、……あれでも會社では、中々に巾が利くんですつて」

と男女の顔を見較べ、嬌然笑つて立つた。

寂とした廊下に、バタ〳〵と草履の音が聞ゆる、夫れもだん〳〵細くなつて、遂に聞ねすなると、甲走つた聲で、何やら言ふのが幽に聞ゆる、室内は、又森閑として來る月光が、南窓からさしこんで、生ぬるい風か、厭な臭氣を送つて來る。

「并してね美江さん」

彼は、思ひ出した如に、再び語を續けるのである。

「緑蔭滴たる故山の夏は、恐らく人生の均しく愉快と絶叫するところでしやう、だが當時の僕の歸省の觀念は、夫れよりかも仍は貴女に逢ふのを、甚麽に樂しみにして居たでしやう、上野を發車てから、彼の寂しい〳〵ステーションに着驛までといふものは、僕の此の胸中は、實に貴女に對する空想で、滿たされて居つたのです、全くですよ、夫れが遂に逢はなかつたのですから、落膽は又非常なものでした」

「貴方がうつむき仰つて下さると、妾……妾眞實に嬉しいわ」

涼しい眼元に笑を滿ゐて、甘ゐるやうに頭を傾げて、男を瞶める、男は瞶められて脫しそうに顔を外すのである。

短夜の夏の月は、高く〳〵冴ゑて、風も漸やく冷ゑて來る、往き來の人の足音も、絶ゑ〳〵に、幽に聞ゆる按摩い笛さへ、何んとなう身に沁みるのである、時計は、一を打つた。

「ア、最う十一時よ、遅いですわね……妾眞實に酔ふてよ……オ、熱い……赤くなつたでしやう……ね……ね貴方」

たとは、花の顔貌に、紅葉を散らしたやうである。女はすりよりざま男の膝に凭れるのであつた、男は夫れを拂はうともせず、

「僕も大に酔つて了ひました、だが愉快ですね美江樣、十年懷舊の友と昔を語ることは眞に愉快ですね」

表座敷から、寂むそうな吟聲が聞へる、無論二宮の聲である。

佛蘭西數會堂のガラ〳〵坂を、明治町の方へ下りたところの四辻を、左へ折れて凡そ二丁計行くと、右へ這入つた小路の奥まつたところに、千歳樓と云ふ小奇麗な待合がある、家屋の周圍には、樹は林と繁つて、枝は繁と滴つて居る。

●溺死体漂着

去る一日午前〇時三十分頃年齢三十歳位の韓人の死体一個麻浦一支部煉瓦工場前の路傍に漂着したれば直ちに警官醫師臨檢せしに死後五日を經過したるものにて身長は五尺二寸五分位にて体質肥滿して健康なるが多分前日來の降雨にて漢江增水の際誤つて溺死したるものにて水流の爲め同所に漂着したるものならんと尚ほ死体は引取人なきを以て洞長崔春基をして假埋葬せしめたりと云ふ

●自殺と溺死　江原道生れの元順日（三十）は去る二十四日北署三清洞李世永方に於て阿片を服して自殺、中署醫洞金劉祐の長男福成（十一）は二十五日午後誤て井戸に陷り溺死せり

●ヨボ兵の暴行　近衛歩兵第四中隊三等卒宋元求（三十）は去る二十七日午前一時頃グデ〳〵に酔つ拂ひ布德門前に客待ち居りし鄭順景の人力車に乘らんとせしも其一文の錢もなきを見て之を拒みたるにヨボ兵威猛高になつて怒り狂ひ俺を何と思ふか身を近衛の軍籍に置き平素は陛下の邊り近く護衛申上げ一朝事あるの日は銃を拾て逃る三十六計の達人なり車夫不情の分際にて國家の干城を輕侮するも程がある如何にして呉れるか見居れと云ひ樣車の幌を破るなどの亂暴を働らくを大貞洞派出所の大牟田巡査かこれを聞入れて認め之を制止せんとせしもつかな聞入れず却て暴行を加へんとするを以て一應西部署に引致の上京城憲兵分隊に引渡したり

●酌婦の地方出稼　南部警察署長桐原警視が鋭意管地の風紀肅正を期する上に於て尊ら之が根たるべき小料理屋の取締を嚴重になし居ることは世人の既に知る如くなるがソレかあらぬか彼等酌婦共は資本妻らすの婦資を爲すことの至つて危險にして從つて更に資入りの無き所から近來はやく冷ゑて來る、往き來の人の足音も、絶多少邦人の集合し居る朝鮮内地の新開地に向つて出稼ぎするも多く現に京義線の沿道たる開城宣川及び其附近の抱川春川金化等の如きは先月中旬より昨今に掛け是等酌業婦の數を增せしとかの噂なるがもし果して實際の現象なりとせば當地に於ける風紀上ゆることに以て放ばしきことゝいふべき也

●韓人の姦通沙汰　竹洞方遺復方同居柳德三（三十）の妻姜（三十）は根が浮氣者で多情者と來てるから少しでも夫の德三より男の好いものと見たら此方から妙な目付をすると云ふものなるが此に曲橋と云ふ所の料亭主の德三よりも三つ年若で男振りも好いので例の如く妙な目付をして誘ひ出したるにア致順もいなにはあらぬ船舟の現るゝまゝに遂に二宮さんと云ふ小奇麗な待合があるが、家屋の周圍には、樹は林と繁つて、枝は繁と滴つて居る。

論二宮の聲である。

「ア、最う十一時よ、遅いですわね……妾眞實に酔ふてよ……オ、熱い……赤くなつたでしやう……ね……ね貴方」

たとは、花の顔貌に、紅葉を散らしたやうである。女はすりよりざま男の膝に凭れるのであつた、男は夫れを拂はうともせず、

「僕も大に酔つて了ひました、だが愉快ですね美江樣、十年懷舊の友と昔を語ることは眞に愉快ですね」

表座敷から、寂むそうな吟聲が聞へる、無論二宮の聲である。

佛蘭西數會堂のガラ〳〵坂を、明治町の方へ下りたところの四辻を、左へ折れて凡そ二丁計行くと、右へ這入つた小路の奥まつたところに、千歳樓と云ふ小奇麗な待合がある、家屋の周圍には、樹は林と繁つて、枝は繁と滴つて居る。

●溺死体漂着

去る一日午前〇時三十分頃年齢三十歳位の韓人の死体一個麻浦一支部煉瓦工場前の路傍に漂着したれば直ちに警官醫師臨檢せしに死後五日を經過したるものにて身長は五尺二寸五分位にて体質肥滿して健康なるが多分前日來の降雨にて漢江增水の際誤つて溺死したるものにて水流の爲め同所に漂着したるものならんと尚ほ死体は引取人なきを以て洞長崔春基をして假埋葬せしめたりと云ふ

●自殺と溺死　江原道生れの元順日（三十）は去る二十四日北署三清洞李世永方に於て阿片を服して自殺、中署醫洞金劉祐の長男福成（十一）は二十五日午後誤て井戸に陷り溺死せり

●ヨボ兵の暴行　近衛歩兵第四中隊三等卒宋元求（三十）は去る二十七日午前一時頃グデ〳〵に酔つ拂ひ布德門前に客待ち居りし鄭順景の人力車に乘らんとせしも其一文の錢もなきを見て之を拒みたるにヨボ兵威猛高になつて怒り狂ひ俺を何と思ふか身を近衛の軍籍に置き平素は陛下の邊り近く護衛申上げ一朝事あるの日は銃を拾て逃る三十六計の達人なり車夫不情の分際にて國家の干城を輕侮するも程がある如何にして呉れるか見居れと云ひ樣車の幌を破るなどの亂暴を働らくを大貞洞派出所の大牟田巡査かこれを聞入れて認め之を制止せんとせしもつかな聞入れず却て暴行を加へんとするを以て一應西部署に引致の上京城憲兵分隊に引渡したり

●酌婦の地方出稼　南部警察署長桐原警視が鋭意管地の風紀肅正を期する上に於て尊ら之が根たるべき小料理屋の取締を嚴重になし居ることは世人の既に知る如くなるがソレかあらぬか彼等酌婦共は資本妻らすの婦資を爲すことの至つて危險にして從つて更に資入りの無き所から近來はやく冷ゑて來る、往き來の人の足音も、絶多少邦人の集合し居る朝鮮内地の新開地に向つて出稼ぎするも多く現に京義線の沿道たる開城宣川及び其附近の抱川春川金化等の如きは先月中旬より昨今に掛け是等酌業婦の數を增せしとかの噂なるがもし果して實際の現象なりとせば當地に於ける風紀上ゆることに以て放ばしきことゝいふべき也

●韓人の姦通沙汰　竹洞方遺復方同居柳德三（三十）の妻姜（三十）は根が浮氣者で多情者と來てるから少しでも夫の德三より男の好いものと見たら此方から妙な目付をすると云ふものなるが此に曲橋と云ふ所の料亭主の德三よりも三つ年若で男振りも好いので例の如く妙な目付をして誘ひ出したるにア致順もいなにはあらぬ船舟の現るゝまゝに遂に二宮さんと云ふ小奇麗な待合がある、家屋の周圍には、樹は林と繁つて、枝は繁と滴つて居る。

論二宮の聲である。

佛蘭西數會堂のガラ〳〵坂を、明治町の方へ下りたところの四辻を、左へ折れて凡そ二丁計行くと、右へ這入つた小路の奥まつたところに、千歳樓と云ふ小奇麗な待合がある、家屋の周圍には、樹は林と繁つて、枝は繁と滴つて居る。

○土耳古金回煙草GD インペリアル 各種 スポルト 赤褐色

京城代理店 歐米雜貨商 京城本町六丁目 岡野商店

差押保證金 訴訟印紙料

精々御用被成下度候 京城長谷川町一丁目 坂本兵太郎

●迷兒　一昨日午後八時本町派出所に一人の迷兒を届出でたるが名は南大門通りにて放歌したる日玉（三十）は南大門通りにて放歌したる日玉を食ふ

●放歌してた日玉　三日午後十二時會洞十五統金春西（三十）は南大門通りにて放歌したる日玉を食ふ

●小便料五十錢　長谷川町第一銀行建築所小使西部中茶洞金德壽（三十）は一昨日午前十一時同建築場に於て尿して五十錢の罰金に處せられたり

●妓舎闖の米國行　義和宮義親王より根本雅子に下賜なる家屋を買受けて一時同宮邸に於て引せられ宏壮なる家屋を買受けて一時同宮邸に於て引せられ宏壮なる家屋を買受けて一時同宮邸に於て引せられ宏壮

老妓茶羅次の身上話 (六)

◎重野博士氷の字の講釋

斯樣して願つて置きやア氷川樒だつて一ツ位は叶て下さいませうそつて重野さんに申し上げると何コホリ川ーヨイ〳〵たちやら夫りやア違つてる成程氷といふ字が書いてあるから氷川と讀むのも無理はないが此神社は氷川神社といふのだといつて教へて下さいました何しろ先樣は大の學者で入るつしやるから妾もすつかり感心をしちまいましてネヘイそうでムいますかデは何でムいますね氷といふ字は氷とも讀ひのでーイ有り難ふ存じましたれ陰で妾も一ツ字を覺へて學者のれ仲間入が出來たといふもんですネと笑いながら宿所へ引き上げました。夫れから東京へ歸ると明治座の火事騒ぎで其處で妾は燒け殘つた座附茶屋さぬきやといふのが懇意でしたから早速見舞をやりましたが此見舞の端書といふのが今だに其處に殘つて居て何時でも笑の種になつてるのでムいます重野先生直傳の學者をふり廻したかつた酒落でも何でもなかつたのでしたが氷といふ字は氷と讀むものだと覺へ込んで仕舞つたので火事見舞と書く所を氷見舞と書いてやつちやつたのですーイ〳〵エ眞正、氷だからでもありますまいか其後さぬきやに行くと洽かされましたネ口惜しいから直ぐ其足で駿河臺の重野先生の所へ駆け込みまして御無沙汰の挨拶も何もソッチ除け先生貴方位酷い方はありません妾にウソ字を教へて飛んだ恥晒しをさして下さいました惡戯にも程があると怒鳴り散らしたのでムいますと先生は何が何だかチットも譯が判らないから妙なれ顔をなすつてヲイ〳〵れちやら何をソンナ驚くのだ落ち付いて話しないかとれつしやるのです其處で氷見舞一條を申し上げますとね流石の重野先生も塔に兼ねたと見ねてハッ〳〵ハッ〳〵と横に笑いこけてれた仕舞いなさいましたが暫時經つてから氷と火のれ講釋をして下さいましたのでヤット腑に落ちイヤハヤ面目だまを踏みつぶして顏から火が出る樣でムいました重野先生には宜く御贔負になりまして郎宅へも度々伺い家族とも極くの懇意でムいますソンナ工合で先生のれ座敷へは限つて呼はれ〳〵致しましたが死んだ圓十郎さんが宜く御一所で芝居の事に就て種々なれ話をなさるのが定でした御存じでもムいませうが彼の圓十郎さんといふ方は自分の氣に向かない所ですと何といつて寄越しても出掛けません宜し又無據所顏を出したにしろ默然で居るといふ質でしたが重野先生とは宜くれ話があつて何時も面白く遊んで歸へり〳〵なさいました

▲京龍醫師案内▼

●●入院隨意●●●
京城本町七丁目
小川病院
電話六五三

●●●入院隨意●●●

産科。婦人科。小兒科
京城本町八丁目
醫科大學產科 婦人科專攻 醫學得業士
山崎病院
山崎宗三

京城本町二丁目(五六銀行前)
齒科治療
齒科醫學士 野田慶治

入院隨意
京城壽町三丁目(元阪井病院跡)
高井醫院
(電話二二六番)
院長 陸軍三等軍醫正 高井貞治

見習看護婦募集す希望者は本人來談あれ
新皇城
日韓病院
大漢門前

入院隨意
電話開通三七八番
京城壽町三丁目清水材木店跡
中島醫院
院主 醫學得業士 中島貞信

内科 外科 婦人科
入院隨意
京城南山町二丁目
植村病院
(電話三三〇)

入院隨意
内外科 小兒科
京城旭町一丁目
安東病院
電話九一三
院長 安東貞一郎

隨時
產科 花柳病

應診療
龍山旭橋通
久木田醫院

入院隨意
龍山老松町
上田病院
電話二二八番

▲京城辯護士案内▼

○○○